



プラン^{さくてい}策定^{けい い}の経緯と

その組織^{そ しき}



1. プラン^{さくてい}策定^{そしきたいせい}の組織体制

プラン^{さくてい}策定にあたり、3つの^{かいぎ}会議^{せっち}を設置しました。
それぞれの^{かいぎめい}会議名^{やくわり}と役割^{したひょう}は、下の表のとおりです。

かい 議 名	りゃく めい 名	やく 役	わり 割
たぶんかきょうせいきょうぎかい 多文化共生協議会	きょうぎかい 協議会		市内 ^{しな} で仕事 ^{しごと} をしたり、暮 ^く らしている外国人 ^{がいこくじん} 市民 ^{しみん} および日本人 ^{にほんじん} 市民 ^{しみん} 、関係者 ^{かんけいしゃ} で構成 ^{こうせい} され、小牧市 ^{こまきし} の多文化共生 ^{たぶんかきょうせい} にかかわる問題 ^{もんだい} を話し合 ^{はなあ} います。 2009～2010年度 ^{ねんど} は主 ^{おも} にプランの内容 ^{ないよう} について協議 ^{きょうぎ} しました。
たぶんかきょうせいすいしんいんかい 多文化共生推進委員会	すいしんいんかい 推進委員会		多文化共生 ^{たぶんかきょうせい} の関係各課 ^{かんけいかくか} の課長 ^{かちょう} で構成 ^{こうせい} され、小牧市 ^{こまきし} の多文化共生 ^{たぶんかきょうせい} にかかわる問題 ^{もんだい} を話し合 ^{はなあ} います。 2009～2010年度 ^{ねんど} は主 ^{おも} にプランの策定 ^{さくてい} を行 ^{おこな} いました。
たぶんかきょうせいすいしんいんかい 多文化共生推進委員会 じつおたんとうしゃかいぎ 実務担当者会議	たんとうしゃかいぎ 担当者会議		多文化共生 ^{たぶんかきょうせい} の関係各課 ^{かんけいかくか} の係長 ^{かりちよう} 職 ^{しょく} 以上 ^{いじょう} または実務担 ^{じつおたん} 当者 ^{とうしゃ} で構成 ^{こうせい} され、小牧市 ^{こまきし} の多文化共生 ^{たぶんかきょうせい} に関するこ ^{かん} とを話し合 ^{はなあ} います。 2009～2010年度 ^{ねんど} は主 ^{おも} に、プランの内容 ^{ないよう} について協議 ^{きょうぎ} しました。



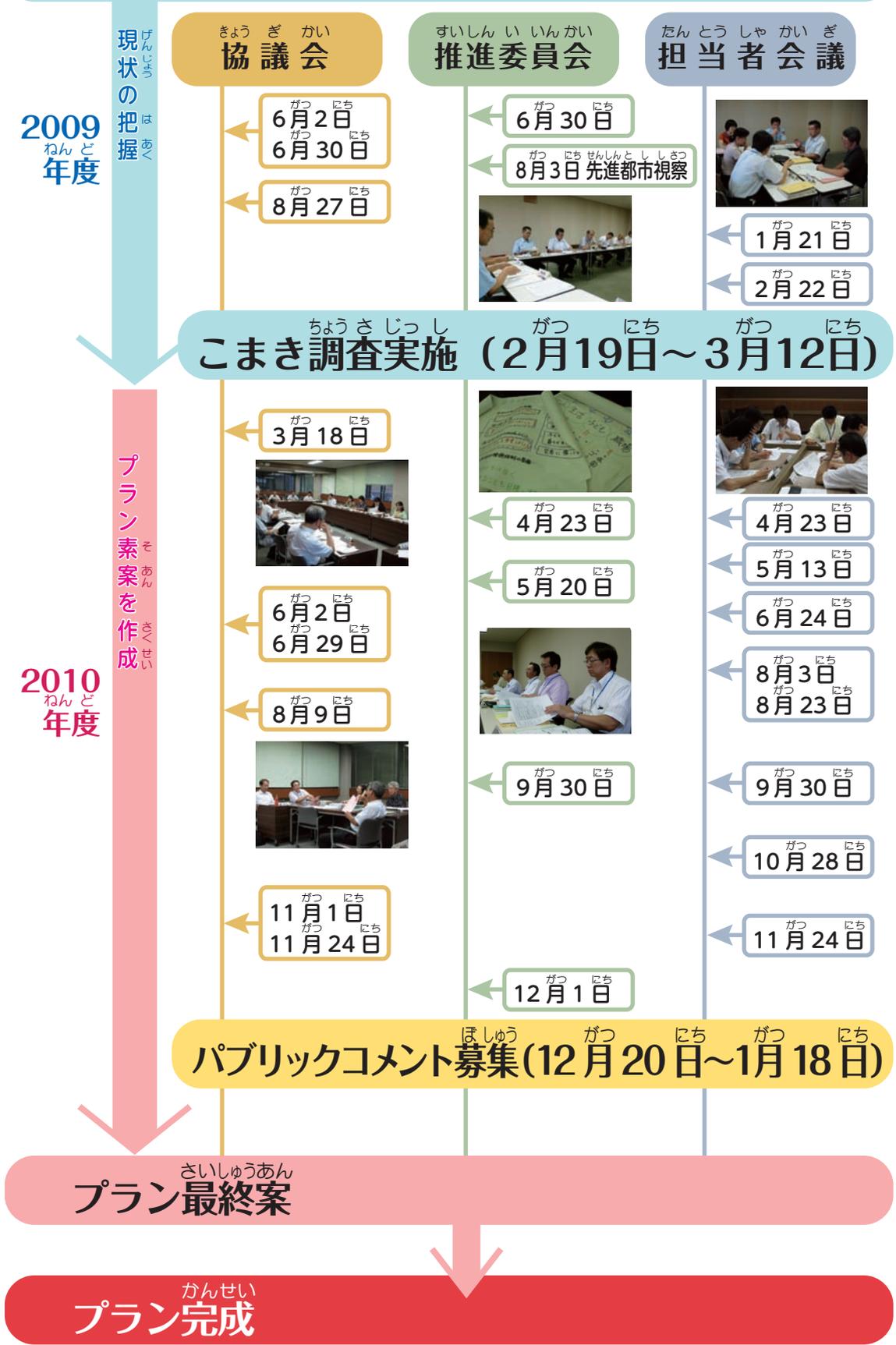
2. 策定期間^{さくていきかん}とその経緯^{けいゐ}

このプランは、2009年^{ねん}4月^{がつ}から2011年^{ねん}3月^{がつ}までの24カ月間^{げつかん}で策定^{さくてい}しました。
2009年度^{ねんど}は、こまき調査^{ちようさ}などを行^{おこな}い、現状把握^{げんじょうはあく}に努^{つと}め、プラン策定^{さくてい}の材料^{ざいりよう}を集め
ました。2010年度^{ねんど}は、内容^{ないよう}や構成^{こうせい}に関して本格的な協議^{かん}を開始^{ほんかくてき}し、プランの構成^{きょうぎ}
から細^{こま}かな内容^{ないよう}まで決定^{けつてい}していきました。

議論^{ぎろん}の進め方^{すすかた}は、協議会^{きょうぎかい}と担当者会議^{たんとうしゃかいぎ}で協議^{きょうぎ}を行^{おこな}い、その協議事項^{きょうぎじこう}を受けて推進^{すいしん}
委員会^{いんかい}で策定^{さくてい}しました。

なお、会議^{かいぎ}の進行^{しんこう}の素案^{そあん}づくりなどにおいては、愛知淑徳大学^{あいちしゅくとくだいがく}が支援^{しえん}しました。

プラン策定の流れ



第3章



3. プラン策定に込めた私の願い

今回まとめたプランは綺麗に整理された単なるお題目でなく「みんなこまき市民」として具体的に活動できることを5つに絞りました。私も企業の立場で実現にむけ全力で取り組みます。市民全員でできることから始めましょう。



いよいよプランが完成しました。多くの外国人と日本人の市民が携わり、時間をかけて完成したプランです。思いを形にしたプランを、今度は実現するために力をあわせて実行していきましょう。

自治会の対応としては、今までと同じように、いろいろな場面で声を掛け合って、いろいろな行事に参加してもらえるように努力をしていくことが大切であると、話し合いの中で感じました。継続していきたい。



会議では外国人市民の方々のお話を聞かせていただき、外国人市民の方々との接し方について今後の参考になることが大変多く、勉強になりました。この経験を生かしていきたいと思います。

外国人市民の多くは地域社会と関わりを持つことが少ないと思われる。外国人市民が地域社会へ積極的に参画してもらえる体制作りと、お互いの国の文化を理解し合って共に活躍できるような環境整備を行い、共生をめざしたい。

プランを実現するために、市、地域、NPOやボランティアが力を合わせて外国人市民をサポートし、みんな笑顔で暮らせるまちにしましょう。

海を越えて来日した私ですが、お互いの障害物（偏見、差別、言葉、文化、習慣）を越えて、個性を尊重しながら、誰もが住みやすい街にするために協力し、努力は惜しまないつもりです。





具体的に多文化共生って何でしょうか？
 プランづくりでは、行政、企業、日本人
 市民、外国人市民が違う考えを持ち、互
 いの立場を理解することから始めました。
 グローバル化が進む中、皆さんも母
 文化を大切にしつつ、改善を考えてみま
 せんか。

私たち外国人市民は、言葉の壁や
 様々な理由で地域社会へ積極的に
 参加できていませんでした。プラン
 づくりの会議に参加することによっ
 て、地域の課題や解決方法を考える
 とともに、こまきに愛着と希望を持
 つことができました。

小牧市を前向きで、思いや
 りあふれ、ルールを守る、
 ハッピーな街にできるよ
 う、気合を入れて頑張りま
 しょう！

今まで近くに住みながら文化の違
 いを認め合う場が多くありません
 でした。こまき市民が同じ目標を
 できる事から始める今回のプラン
 を通じ、多文化の相互理解の場と
 なり、共生への第一歩になってほ
 しいと願っております。



外国人市民、日本人市民もあ
 りません。こまき市民は一つ
 です。みんなで協力し、安全・
 安心・快適なまちをつくろう。

委員に誘われた時は一瞬参加するか迷いま
 したが、参加して外国人市民の方と色々な話をし、
 力をあわせ、一緒にプラン策定でき、大変良い
 経験になりました。今はプランがはじまったば
 かりで、これをいかに実現し、継続するかが重
 要なことだと思います。「こまき」という「す
 ばらしいまち」をさらに全国に名を馳せるため、
 一市民としてプラン実現に努めたい。



人と人がふれあい、大きな輪となっ
 ていくことがプランの成功につな
 がる一番の「カギ」だと思います。国
 籍や人種など人には違いがありますが、
 それを超えたふれあいが、多くの
 「こまき市民」の「笑顔」につな
 がっていきと思っています。

真の多文化共生を願うからこそ
 「一人の百歩でなく、百人の一步」
 という視点を大切にしました。こ
 まき市民みんなで歩み出します。
 頑張っていきましょう！



